

Press Release 2024.04.23

高田賢三 夢をかける



①初のブティック JUNGLE JAP の店内装飾 1970年 撮影：岩田弘行



②1971-1972 秋冬
文化出版局 『High Fashion』
1971年10月号 撮影：大西公平



③1971-1972 秋冬
文化出版局 『High Fashion』
1971年10月号 撮影：大西公平



④1971-1972 秋冬
文化出版局 『装苑』
1971年9月号 撮影：増淵達夫

高田賢三（1939-2020）は、日本人のファッションデザイナーとしていち早くパリに進出し、斬新なアイデアで常識を打ち破るスタイルを次々と生み出しました。単身で渡仏後、1970年にパリで自らのブランドを立ち上げた高田は、木綿の新しい可能性を打ち出したことで「木綿の詩人」と称され、早くから注目を集めます。その後も、身体を衣服から解放させることを意識し、直線裁ちの着物袖やダーツをなくしたゆとりある服を生み出したり、独特の色使いや柄の組み合わせを用い「色彩の魔術師」と称されるなど、日本人としての感性を駆使した作品を数多く発表しました。それらは、国境や文化、性別を自由に超え、これまでの西欧中心の伝統文化にとらわれない新しい衣服を示唆することとなり、今もなお世界中で愛されています。

2020年に惜しまれつつ逝去した高田賢三の没後初の大規模個展となる本展では、高田のファッションの変遷を衣装展示でたどるとともに、幼少期から描いていた絵画やアイデアの源泉となった資料、衣装のデザイン画などを紹介し、多角的な視点で人物像を浮かび上がらせ、日本人デザイナーのパイオニアとして世界で活躍した高田賢三の生涯にわたる創作活動を回顧します。

本展の見どころ

①タイムラインでたどる高田賢三の人生

姫路市出身の高田賢三は1958年に文化服装学院に入学。戦後の洋裁学校ブームのなか、小池千枝氏に師事しました。1960年には若手デザイナーの登竜門である「装苑賞」（第8回）を受賞し、ファッションデザイナーとして第一歩を踏み出します。渡仏後、1970年に自らのブランドを立ち上げてから、1999年にKENZOブランドを去るまでその人気は衰えることなく第一線を走り続けました。ブランドを離れた後、2000年代に入ってから、2004年のアテネオリンピック日本選手団公式服装のデザインや、2019年には演出家宮本亜門氏による『蝶々夫人』の衣装を手掛けるなど、クリエイターとしての活動は続きました。

幼少期、東京の文化服装学院で過ごした学生時代、パリに渡ってからの活躍、そして晩年の活動まで幅広く紹介し、高田の人柄を語るトピックを織り交ぜながら、彼の魅力あふれる人生を紹介します。

②国内外のコレクションから厳選したオールド・ケンゾー

前半では、装苑賞を受賞した記念すべき作品をはじめ、「日本のきれ」を使った初期の作品、「ニット」「ツイード」「バルーン」といった素材や技法、「アンチクチュール」「ペザント・ルック」「ミリタリー・ルック」など、1970年代に高田が発表したテーマに着目して紹介します。

後半では、「日本」「中国」「ルーマニア」「ロシア」「アフリカ」など、高田賢三の代名詞ともいわれる世界各地の民族衣装に着想を得た1970～80年代のフォークロア作品を一堂に展示します。すでに多様性、包摂性を持ち合わせていた高田賢三の世界を堪能できる空間となるでしょう。

さらに、集大成となったKENZOブランドでの最後のショー「30ans」^{トランタン}を、映像フィルムをデジタル化し、ダイジェストで紹介いたします。

③20年間集めたリボンで作られたウェディングドレス

1982年秋冬のショーに登場したマリエ（ウェディングドレス）は、高田が20年間にわたって集めたリボンを使って制作した大作です。花の刺繍が施された色とりどりの美しいリボンが使われています。このドレスは1999年に行われたショー

「30ans」^{トランタン}で、日本を代表するモデル、山口小夜子が着用しました。本展ではこのドレスとともに、制作の様子も写真資料で紹介いたします。



⑤1972 春夏
文化出版局 ©装苑 1972年3月号 撮影：岩田弘行



⑥1971-1972 秋冬
文化出版局 ©装苑 1972年1月号 撮影：岩田弘行



⑦1982-1983 秋冬 RICHARD HAUGHTON

高田賢三 略歴



⑧高田賢三 2016年撮影 毎日新聞社

1939年、兵庫県姫路市生まれ。文化服装学院に入学し、1960年に若手デザイナーの登竜門「装苑賞」（第8回）を受賞。渡仏して5年後の1970年、パリに自らのブランドを立ち上げる。その自由で華やかなデザインで瞬く間に人気が広がり、世界を代表するトップデザイナーとして活躍した。1999年に「KENZO」ブランドから退いた後も、企業とのコラボレーションやオペラ衣装の制作、新たなブランドの立ち上げなど、精力的に活動した。2020年、81歳で逝去。

1984年 フランス芸術文化勲章シュヴァリエ位
1985年 第3回毎日ファッション大賞
1998年 国家功労賞芸術文化勲章コマンドゥール位
1999年 紫綬褒章
2016年 レジオンドヌール勲章シュヴァリエ位 ほか受賞多数

開催概要

展覧会名 高田賢三 夢をかける
会期 2024年7月6日[土]—9月16日[月・祝] *62日間
*プレスプレビュー 7月5日[金]
会場 東京オペラシティ アートギャラリー
開館時間 11:00 - 19:00 (入場は18:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、8月4日[日・全館休館日]
主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団、毎日新聞社、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
特別協賛 NTT 都市開発リート投資法人
協賛 セイビホールディングス、DNP 大日本印刷、大和ハウス工業、
後援 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、TBS グロウディア
特別協力 文化学園ファッションリソースセンター、KENZO PARIS
協力 日本航空
入場料 一般 1600 [1400]円/大・高生 1000 [800]円/中学生以下無料
前売券 一般 1400円/大・高生 800円
前売券販売期間 5月1日[水]—7月5日[金]
オンラインにて販売 <https://www.e-tix.jp/takadakenzo/>

お問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

*同時開催「収蔵品展 080 となりの不可思議」「project N 95 田口薫」の入場料を含みます。

* [] 内は各種割引料金。

*障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。

*割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】福島直 【広報】市川靖子、吉田明子

Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com